

芸閣

～図書館だより～

第7号
2023年11月
桐蔭図書館発行

芸閣...「うんかく」と読みます。
書庫、書斎という意味です。
(「芸」は書籍に挿む虫除けの香草)

立冬

「立冬」を広辞苑で調べると、「二十四節気の一つ 冬の始め」と書かれています。今年の立冬は11月8日(水)でしたが、その頃は、昼間の気温が20度を超えていて、「冬の始め」ではなく「夏の終わり」という感じでした「えっ、もう立冬?」とビックリしました。しかし、中旬頃から急に寒くなりましたね。「秋」が無く、「夏」から急に「冬」になった感じですね。

図書館講座のお知らせ

日時 12月19日(火) 13時～14時
場所 桐蔭図書館
内容 中国の方を講師としてお迎えして、中国の生活・歴史・文化・言葉などを紹介していただき、異文化に対する理解について一緒に考える
講師 黄 家玉(こう かぎょく)氏

中学生、高校1・2年生の後期図書委員は全員参加してください。その他の方で参加したい人は、12月12日(火)までに図書館へ申し込んでください。

図書館講座は三者面談中です。参加する人は、この時間に面談を入れないように気をつけてください。

新しく入った本の紹介

日本の小説

桐蔭高校出身の方です

- 『たそがれ大食堂』 坂井希久子 著 双葉社
『地中の星』 門井慶喜 著 新潮社
『世界でいちばん透きとおった物語』 杉井光 著 新潮社
『アリアドネの声』 井上真偽 著 幻冬舎
『それは誠』 乗代雄介 著 文藝春秋
『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』
汐見夏衛 著 スターツ出版
『おあとがよろしいようで』 喜多川泰 著 幻冬舎
『星を編む』 凧良ゆう 著 講談社
『夜明けのはざま』 町田そのこ 著 ポプラ社
『青春をクビになって』 額賀滯 著 文藝春秋
『サクラサク、サクラチル』 辻堂ゆめ 著 双葉社
『マリスアングル』 誉田哲也 著 光文社

社会科学

- 『ルボ誰が国語力を殺すのか』
石井光太 著 文藝春秋
『学校では教えてくれなかった社会で生きていくために知っておきたい知識』
泉美智子 監修 KADOKAWA
『江戸の衣装と暮らし解剖図鑑』
菊地ひと美 著 エクスナレッジ
『6カ国転校生ナージャの発見』
キリーロバ・ナージャ 著 集英社

エッセイ

- 『続 窓ぎわのトットちゃん』 黒柳徹子 著 講談社
『いつかたこぶねになる日 漢詩の手帖』
小津夜景 著 素粒社
『キリンに雷がおちてどうする 少し考える日々』
品田遊 著 朝日新聞出版

日本文学

- 『百人一首解剖図鑑』 谷知子 著 エクスナレッジ
『源氏物語解剖図鑑』 佐藤晃子 著 エクスナレッジ
『女二人のニューギニア』 有吉佐和子 著 河出書房新社



11月16日

生徒図書充実委員会

和歌山県立美術館へ
行ってきました！



先日の第2ブロック生徒図書充実委員会では、和歌山県立近代美術館にお邪魔しました。そこで展示を拝見したり、副館長さんの講演をお聞きしたりしました。私は、現在展示されている原勝四郎さんの展示が特に印象に残りました。私の父が田辺出身なので、実際に見た事のある景色が力強い筆で描かれており、感慨深かったです。また、原勝四郎さんが生涯をかけ描き続けた絵が時系列に展示されており、対象物やタッチの変化を見ることができ、面白かったです。

(図書局 2年)